

# 第77回 総務省 接続政策委員会 ご説明資料

2026年1月21日

一般社団法人 日本ユニファイド通信事業者協会

A solid orange circle is positioned to the left of the text.

# JUSAについて

# 協会概要

名称

一般社団法人 日本ユニファイド通信事業者協会  
Japan Unified communications Service provider Association

設立

2019年

種別

非営利

会長

近藤 邦昭

住所

東京都港区西新橋

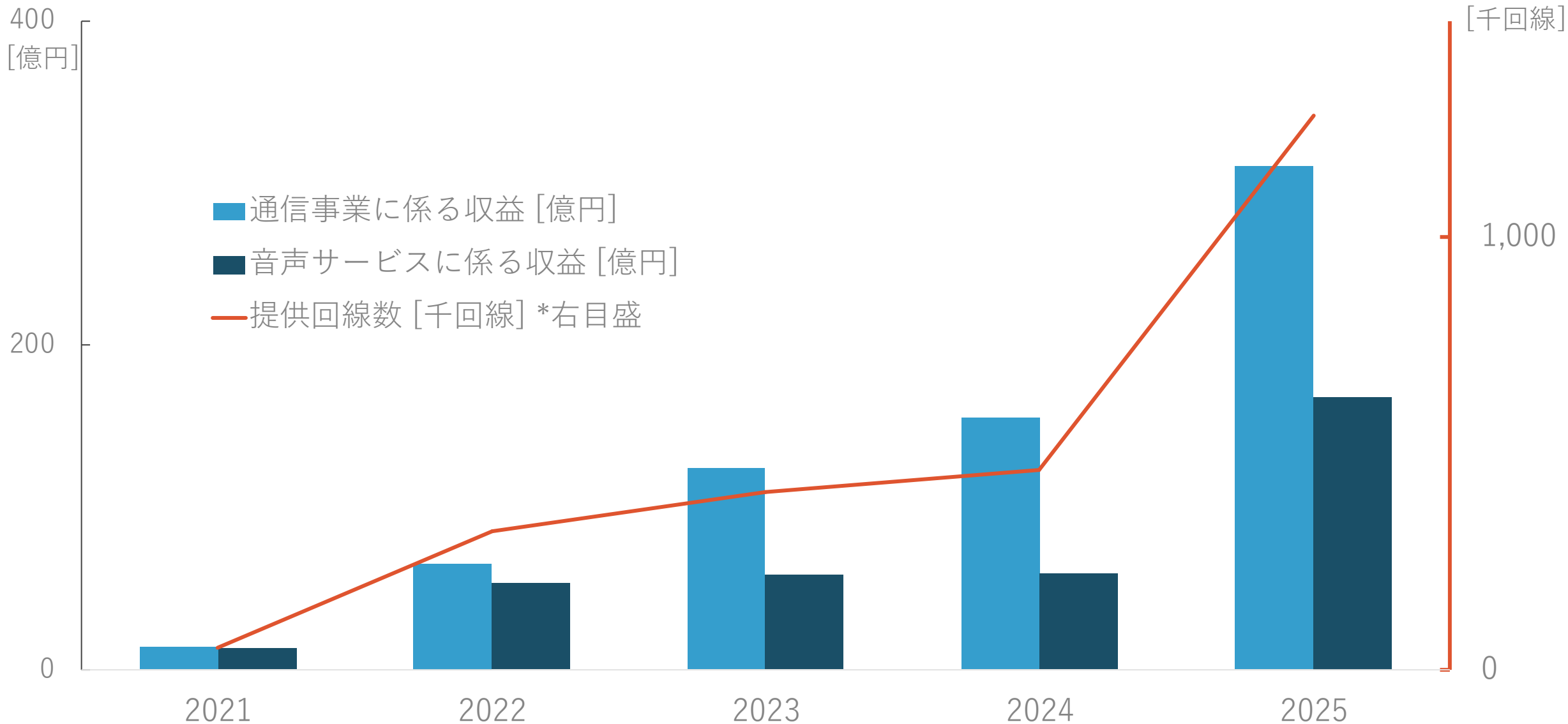
団体

ETOC：電話事業者認証機構



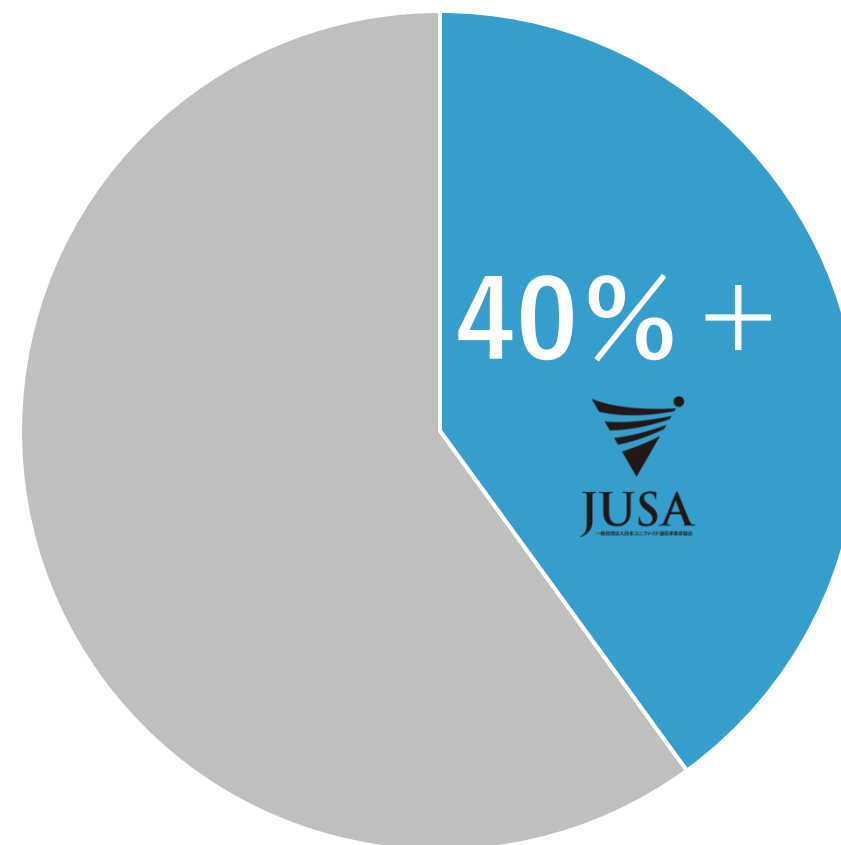
組織名	活動
政策部会	事業法・関連法令・通信政策に関する議論
メッセージ部会	SMSなどメッセージングサービスに関する議論
番号停止運用部会	犯罪利用された電話番号停止スキームの運用
優良事業者認定WG	ETOC（電話事業者認証機構）への協力
PSTNマイグレーションWG	PSTNマイグレーション・番ポに関する議論
緊急通報SG	電話転送役務における緊急通報に関する議論

# JUSA会員の状況 #1 (一部会員アンケート)



## 会員事業者・関連事業者の数

## SMS配信サービス市場でのシェア



A solid orange circle is positioned to the left of the main title text.

# JUSAの意見

# 1. 総論

## 1. 基本的な考え

音声通信市場は縮小傾向にあるとされていますが、クラウド技術等を活用した新たな音声・通信サービス分野（ユニファイド通信分野）は世界的に高い成長率を示しており、日本も同様です。グローバル規模での技術開発およびサービス競争が激化しています。今まさに国内でも多くの事業者が参入していることから更なる競争環境の整備をお願いします。

## 2. 固定電話代替性の評価について

LINEやTeams等のOTT（Over-The-Top）アプリケーションが普及している現状は認識していますが、通話品質の担保、緊急通報への対応、電話番号のアイデンティティとしての機能等を踏まえると、これらは必ずしも既存の固定電話サービスを完全に代替するものとして機能しておらず、音声電話市場における有効競争が十分に確保されているとは言い難い状況です。

## 3. 制度への期待

これまでの安定したサービス基盤を大切にしつつ、より多様な事業者が参入・競争できる環境作りが重要だと考えます。新規参入によってサービスや料金の選択肢が広がるだけでなく、災害時の通信確保や最新のデジタル技術の導入もさらに加速します。既存事業者の「縮退」視点のみならず、新しいプレイヤーの『成長のチャンス』を捉え、グローバルな観点も取り入れたルールづくりをぜひ進めていただくように期待します。

例

#	状況	影響
1	全国の固定電話番号の割り当てには全国に物理的な回線を必要とする	1. 全国提供が大手事業者に限られる状況 2. 災害に弱いネットワークとなる点、通話品質の劣化
2	NNIインタフェースによる接続が困難	1. Early-mediaや発番号透過転送など主要な機能提供が大手事業者に限られており競争困難
3	フレッツコラボ事業者間の番ポ不可	1. 固定電話番号番ポ不可の利用者が多数
4	番ポの対象番号の拡大	1. 他の種別も番号ポータビリティの対象とする（050番号等）

## 2. 音声接続料の在り方とビル&キープ（BK）方式について



### 1. 基本的な考え

接続料は通信事業者間の公正競争基盤の根幹であり、その低廉化と共に、同時に多様な事業者が自由に参入し、持続的に競争できる環境の維持が最も重要であると考えます。まずは現状のBK交渉の実態等を確認した上で、課題点を確認した上で議論していただくことを希望。

### 2. BK方式の適用に関する見解

「接続料の算定等に関する研究会 第七次報告書」を踏まえ、BK方式を選択可能とする制度が整備されたことに関し、事業者の競争環境が進展しており、総務省殿はじめ議論いただいた皆様に大変感謝しております。しかしながら、仮に全面的にBK方式を導入したとしても、着信課金等の片務的な呼種が存在する現状では、課金システムや精算業務が不要になるわけではありません。事業者の事情により接続料を設定する必要があることを前提とすれば、現時点においてBK方式を全事業者に一律強制（原則化）するほどの緊急性および合理性は認められないと考えます。一方で、全呼種に対してBKが導入された場合、精算にかかるコストが大きく軽減され、新たな事業者の参入を容易にし、健全な競争が進展することにつながるためBKの原則化に賛成します。

### 3. 事業者間協議の重要性と懸念事項

まずは前回の議論結果に沿い、事業者間協議を経て個社ごとにBK方式の適用の是非を決定すべきと考えます。その際、接続事業者（中小事業者等）がBK方式を要望しても、交渉力の格差により大手事業者との間で協議が整わないケースが懸念されます。

総務省におかれましては、前回の制度導入後の協議状況を確認し、中小事業者が指定設備事業者に対してBKを求めても協議が整っていないケースの有無や、同一事業者においても固定と携帯で接続料の求めが異なるケースなどの実態を確認していただくことを要望します。

# 3. LRIC（長期増分費用）方式の見直しについて

現状のLRIC方式による算定は当面維持すべきと考えます。

LRIC廃止は大手事業者によりとなり、中小事業者に経営上の不透明さをもたらします。

## 1. 基本的な考え

LRICモデル自体を、さらなる料金低廉化に向けて改良していく議論については賛成です。一方で、下記のような指定事業者の構造的課題や交渉力の非対称性が解消されていない現状においてLRICを廃止することは、競争環境への悪影響が大きいため、当面は維持すべきと考えます。全呼種のBK化が実現する際に、LRICの廃止に向けて議論していただくことを希望します。

## 2. 公正競争環境維持のためのベンチマーク機能

LRICは、理論上最も効率的な設備を構築した場合の費用として、指定事業者のみならず接続事業者（他社）にとっても、自社の接続料原価やネットワーク効率性を測る重要なベンチマークとして機能しています。また、接続条件が個別交渉に委ねられる現状において、LRICは極めて重要なアンカーとしての役割を果たしています。仮にLRICを廃止した場合、強い交渉力を有する大手事業者との接続協議において、客観的な価格基準が失われることで協議が円滑に進まない恐れがあります。LRICであっても長期間にわたり大手事業者との合意に至らないケースもあります。LRICが廃止されることは相対的に中小事業者にとって不利であり、ひいては公正競争環境が減退する可能性が高いことをご理解いただくようお願いいたします。

# 4. メタル回線縮退（PSTN移行）に伴うコスト配賦

## 1. 基本的な考え

1. メタル回線の維持・撤去等に係る費用配賦によって光回線等の接続料が上昇することは大きな影響が発生するため避けていただくようお願いいたします。
2. 接続料の上昇は、利用者料金への転嫁を招き消費者利益を損なうだけでなく、事業者負担の増加により市場の競争圧力が著しく減退する可能性があります。ひいては、我が国の通信産業全体のグローバル競争力を相対的に低下させる懸念があります。
3. 特に光回線接続料は電話の市場価格に比べて高額となるため、料金にセンシティブです。

## 2. 移行期の費用算定

1. 移行開始時点でのメタル加入者数を固定して算定することや、配賦基準を従前のケーブル長比に戻す、メタルの撤去等に伴う収益でコストを下げるなど、成長分野である光回線の接続料が上昇しないように要望します。接続料の急激な変化を伴う場合、競争環境の維持や利用者利便の追求の観点から料金やその上昇に上限を設定するなどの激変緩和措置が必要。

## 3. 移行後の費用算定

1. 移行期の費用・接続料の推移など詳細を踏まえながら継続的に議論することを要望。



JUSA

一般社団法人日本ユニファイド通信事業者協会